



益田市の地域づくり

島根県



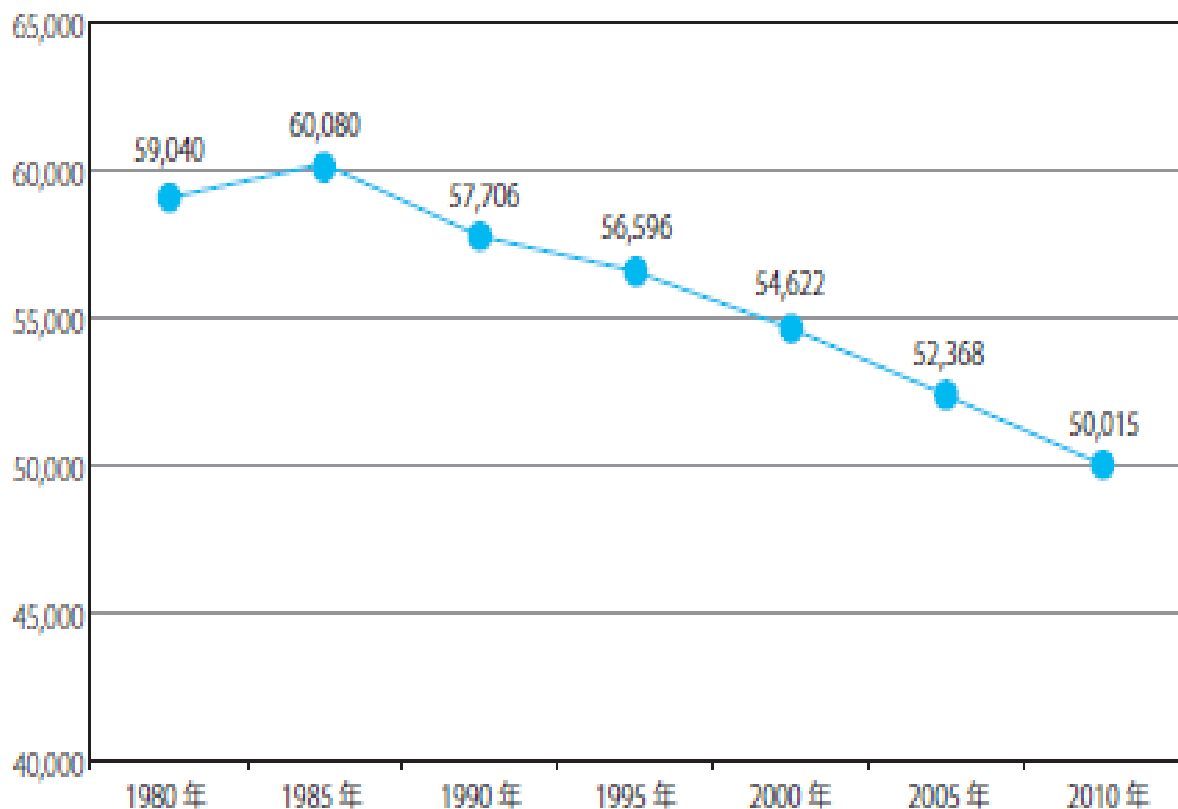


市の現状は
どうなってるの？

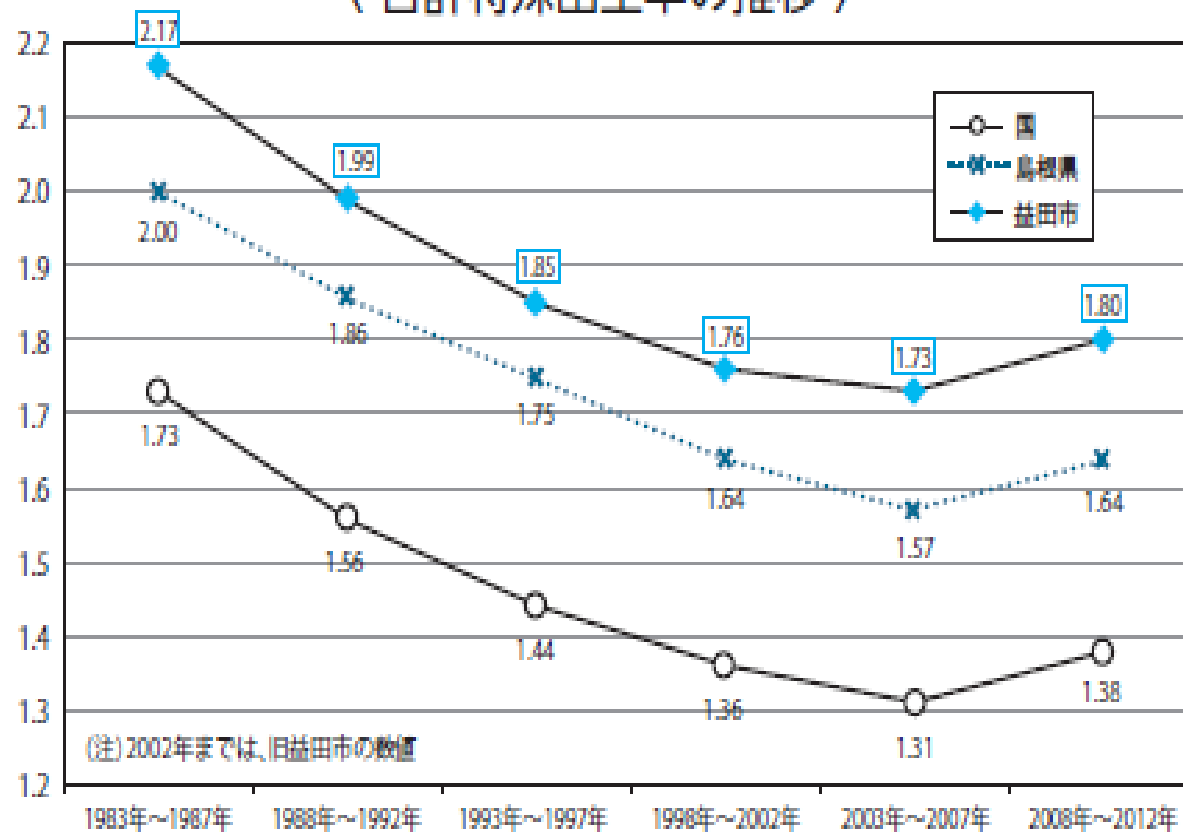
市の総人口は、1985 年（昭和 60 年）の人口を 1 とすると、2010 年（平成 22 年）は 0.832 となり、10,065 人減少していますが、*合計特殊出生率は、県内でもトップレベルの水準であり、国の長期ビジョンの 2060 年（平成 72 年）の出生率 1.80 を既に実現している状況となっています。

※人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子どもの平均数を示す

〈総人口の推移〉



〈合計特殊出生率の推移〉





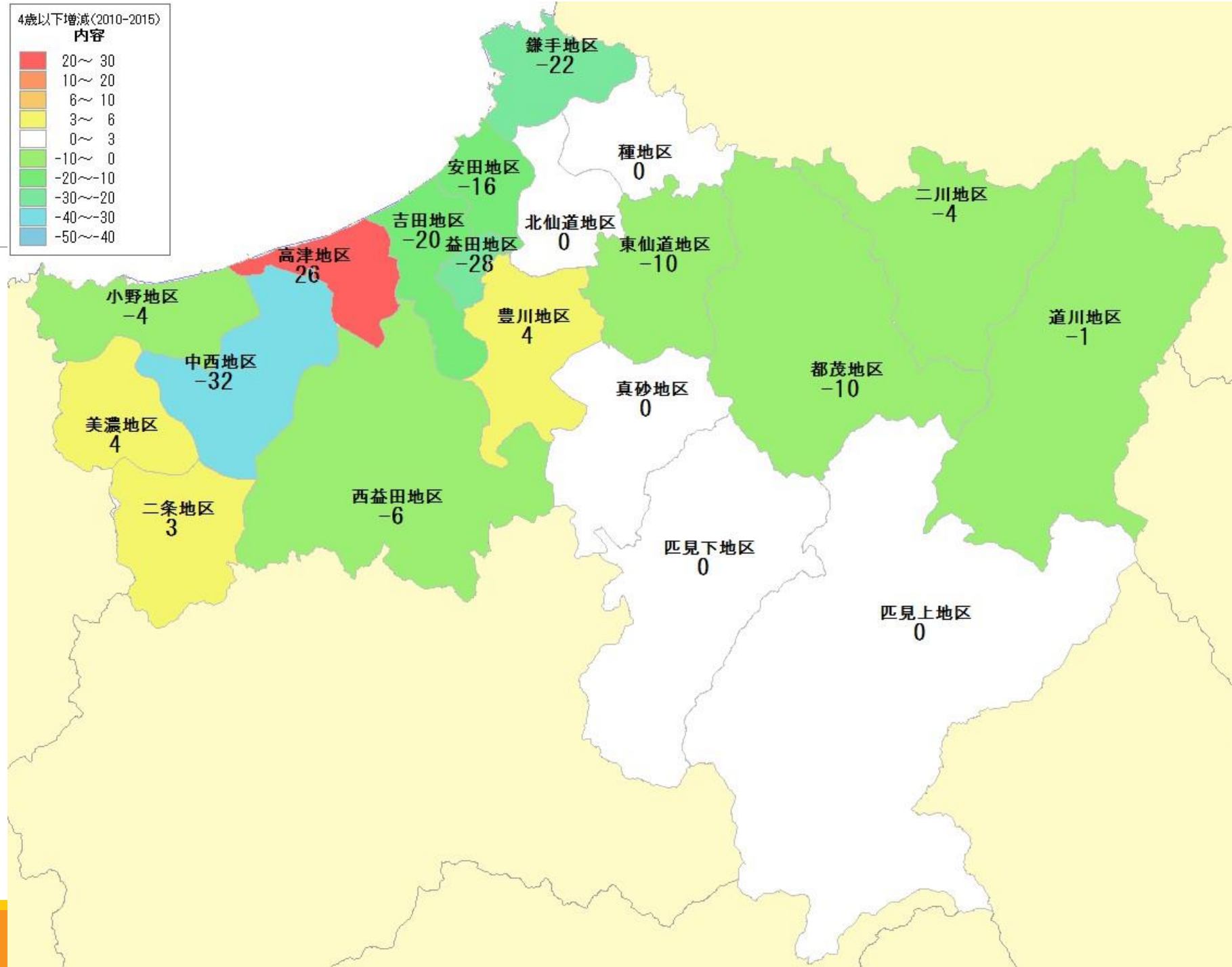
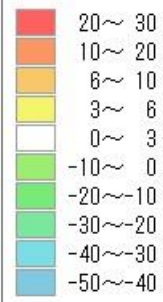
4歳以下の子供の人数を
比較してみると・・・

2010年と2015年の4歳以下人口を比較したところ、市全体では116人減少しているものの、地区別にみると、増加および増減なしの地区が9地区にもおよびます。決して市街地で増加し、中山間地域で減少しているわけではないことがうかがえます。

地区名	2010年	2015年	差引
益田地区	280	252	-28
吉田地区	684	664	-20
高津地区	359	385	26
安田地区	175	159	-16
鎌手地区	58	36	-22
種地区	7	7	0
北仙道地区	16	16	0
豊川地区	24	28	4
真砂地区	14	14	0
西益田地区	144	138	-6
二条地区	14	17	3
美濃地区	5	9	4
小野地区	56	52	-4
中西地区	73	41	-32
東仙道地区	30	20	-10
都茂地区	33	23	-10
二川地区	4	0	-4
匹見上地区	12	12	0
匹見下地区	4	4	0
道川地区	4	3	-1

4歳以下増減(2010-2015)

内容





市の対策はどうなってるの？

(1) 益田市総合戦略

「益田市人口拡大計画」を基礎に置き、これをさらに発展させ、次の4項目を基本目標に設定した「益田市総合戦略」を平成27年10月に策定しています。

- ①定住の基盤となるしごとをつくる ②結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ③益田に回帰・流入・定着するひとのながれをつくる ④地域にあるものを活かし、安心して暮らせるまちをつくる

(2) 益田市ひとづくり協働構想

「ひとづくり」によって今後の益田市の活路を開くという信念のもと、「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、平成28年3月に「益田市ひとづくり協働構想」を策定しました。

●目指す人のすがた

- ①将来の益田市を支えるため、自らの可能性を広げることのできるひと。
- ②しごとを継続発展させるひと。しごとを創り出せるひと。
- ③地域のひとと協力し、地域を支えるひと。地域の資源を活かせるひと。

このような「ひとづくり」を目指しています。

【推進体制のイメージ】

ひとづくり推進本部



報告・指示

ひとづくり推進委員会

連携

協働

ひとづくり連絡会議

未来の担い手づくり部会

産業の担い手づくり部会

地域の担い手づくり部会

あらたなまちづくり、
ひとづくりが
はじまるのね!!

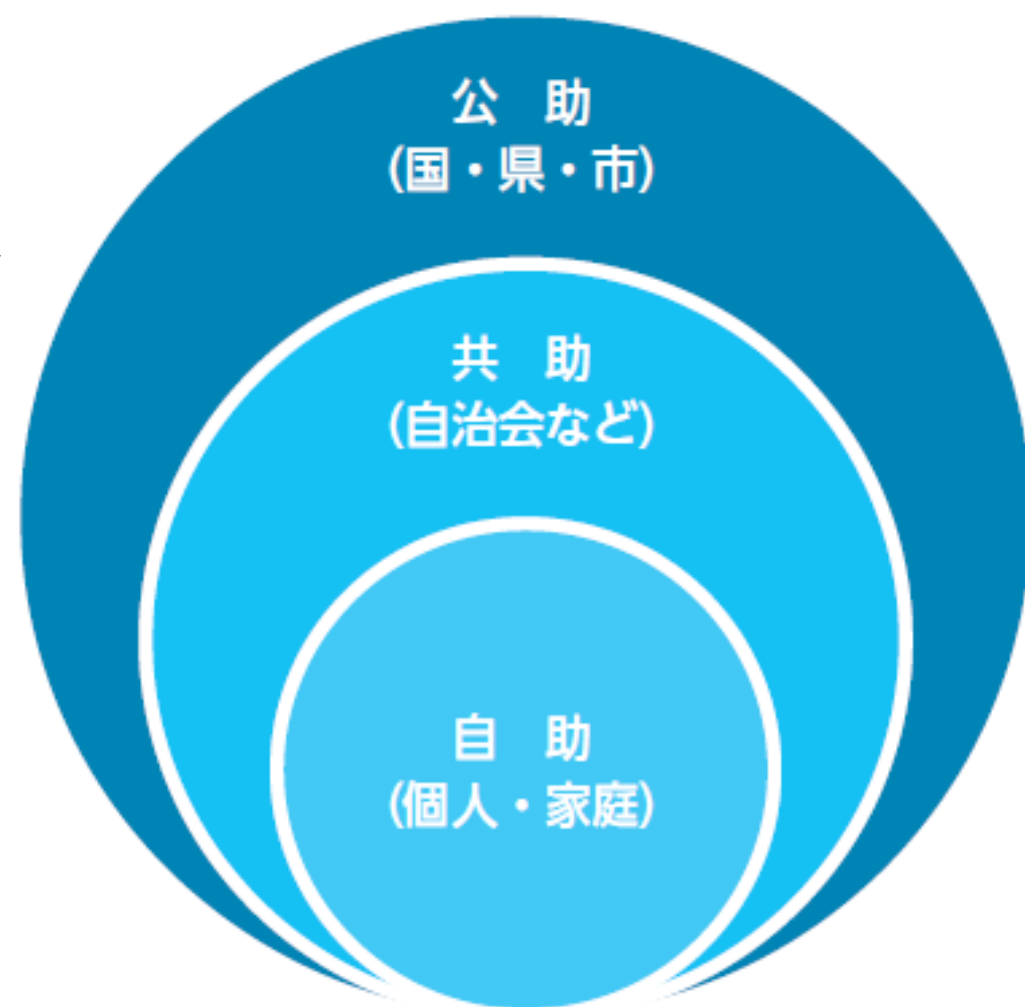




地域づくりの役割は
どうなっているの？

地域づくりの基本的な考え方として、「補完性の原理」というものがあります。これは、個人や家庭が抱える問題は個人や家庭で解決するという「自助」。もしそれが不可能であればご近所や自治会等で解決するという「共助」。共助でも難しいようであれば、基礎自治体の市町村、そして広域行政の都道府県、それでも難しければ最後は国が解決するという「公助」という具合に、なるべく身近なところで解決するという考え方です。

現在市では、市内 20 地区ごとに、「共助」の基盤となる「地域自治組織」の設立を奨励し、多様な支援を行なっています。



「補完性の原理」のイメージ



地域自治組織ってどんなもの？

『地域自治組織』とは、その地域のことを一番理解し、考えている住民や団体が、自らの地域を住みよいものとするために、自主的、主体的に取り組む組織のことです。自分たちのことは自分たちで決め、動かしていく、まさに地域住民が主役となった地域づくりの形です。

具体的には、次のとおりです。

- ①従来の地縁に加え、地域の活動を支える市民団体との連携や世代、性別、立場を超えて話し合いや決めごとを行うことができる組織。
- ②地域住民や団体がひとつの目標を描き、その目標に向かって一丸となって取組を進めることができる組織。
- ③広域的な区域の中でお互いに補完し合いながら、連携した総合的な取組ができる組織。

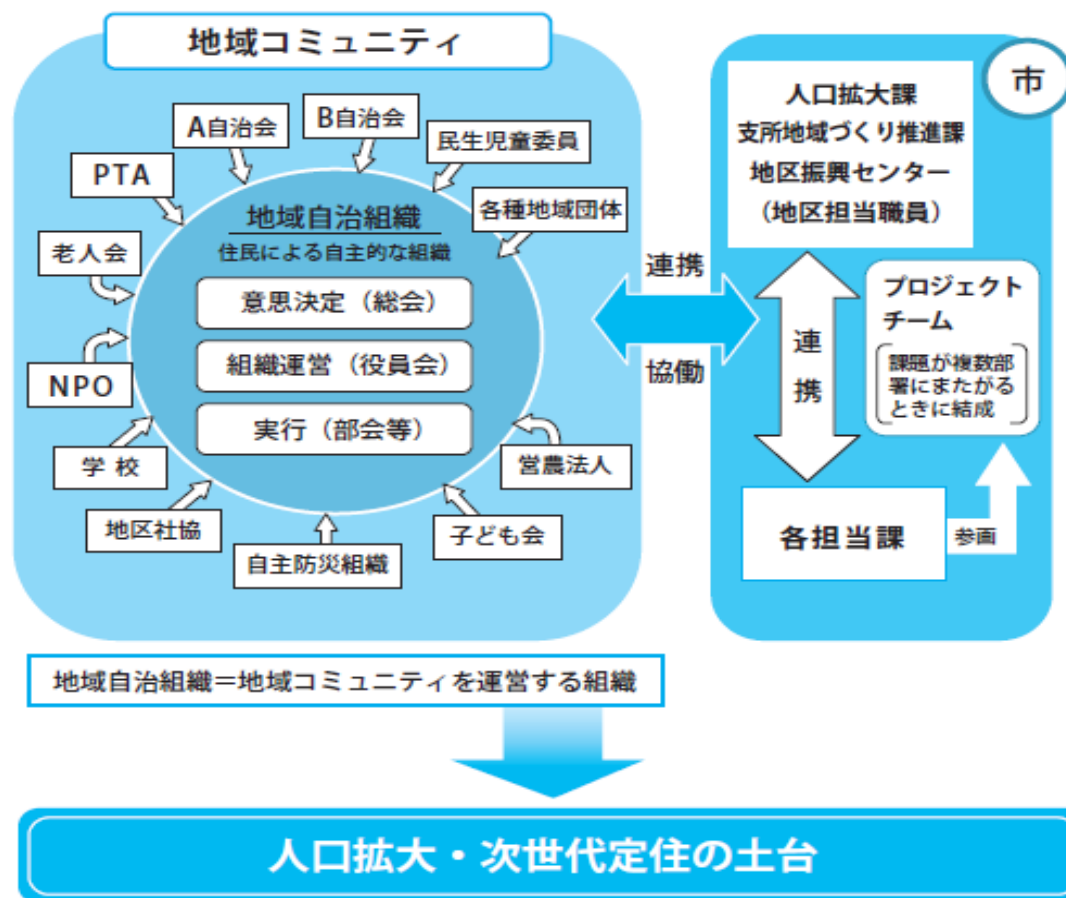
単なるグループではなく、
目的を共有した地域づくりの
チームが地域自治組織なんだね！！





これからの地域自治は
どう考えればいいの？

地域コミュニティの行き詰まりは、これからますます進んでいくことが予想されています。これは今のところ問題なく活動が維持されている地域であっても例外ではありません。地域が抱える課題を解決し、地域コミュニティを維持していくためにも、従来の地縁による住民同士の結びつきに加え、地域の活動を支える市民



団体との連携や世代、性別、立場を超えて話し合いや決めごとを行う仕組みをつくるのが大切です。また、同時に現在抱えている担い手不足、活動者不足を補うためにも、地域自治組織のような体制づくりが必要となります。そして、市も部局を横断して地域と対話ができるような体制を構築し、一体的に地域を支えることが必要となります。

住民、団体、市がお互いに尊重し合い、その活動を支える協働の仕組みが、これからの地域自治の目指すべき姿であり、このことにより地域の活性化を図り、各地の人口拡大・次世代定住の土台を構築していきましょう！



国は地域づくりをどのように考えているの？

国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標には、「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」とあります。そして、この目標を推進するための施策の一つに「小さな拠点」の形成が盛り込まれています。



「小さな拠点」の形成とは
どういうものなの？

人口減少や高齢化が進む中山間地域等では、小規模な集落が広い範囲に点在しています。こうした状況では、買い物や医療、福祉

など日常生活に必要な様々なサービスをそれぞれの集落の中で個別に提供することが難しくなるため、商店や診療所などが撤退したり、バスの便が減少したりと、暮らしの維持に必要な機能が徐々に集落から失われています。

「小さな拠点」とは、小学校区など複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場などを「合わせ技」でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図ることで生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくる取組です。

この「小さな拠点」と周辺集落とをコミュニティバスなどの移動手段で結ぶことによって、生活する上での交通手段に困る高齢者なども安心して暮らし続ける生活圏＝「ふるさと集落生活圏」が形成されます。

さらに、集落地域のみならず、都市圏も含め、それぞれの地域の実情に応じてつくられた様々な規模の拠点が複合的・重層的なネットワークを形成することで、それぞれの特性を活かして互いに機能を補い合い、地域での暮らしを総合的に支える仕組みをつくることができます。

また、島根県の総合戦略においても、中山間地域における「小さな拠点づくり」（地域運営の仕組みづくり）を進めることになっています。





市でも小さな拠点づくりに取組んでいるの？

市の総合戦略では、「小さな拠点づくり」とは明記していませんが、「地域の資源を活かした地域の魅力向上と新しい地域運営の仕組みづくり」を施策として明記しています。これは、国、県が進める「小さな拠点づくり」と同義であり、市が設立を奨励している地域自治組織の取組は、地方創生と軌を一にするもののなのです。

国、県も市と同じ考え方で、
地域づくりが進められているんだね。





市内の各地区の様子は
どうなっているの？

平成29年8月現在、市内8地区で市の認定を受けた地域自治組織が結成されています(9地区で設立済み)。この間、住民同士の話し合い、地区民に対するアンケートや意見交換等多くの地域住民の声をとりまとめ、相互理解を深めながら、組織を結成されました。平成26年8月の「二条里づくりの会」の設立を皮切りに、平成28年度には道川地区、真砂地区、匹見下地区、安田地区、小野地区の5団体、平成29年当初には二川地区、美濃地区、豊川地区の3団体が設立され、計9団体となっており、地域住民の想いを形にした「まちづくりプラン」に沿った事業が始まっています。

なお、その他の11地区においても、地域自治組織設立の検討や準備が行われているところです。



話し合いの様子(真砂地区)



認定交付式(二条地区)



鳥獣被害集落点検(匹見下地区)



配食サービス(道川地区)



新着情報

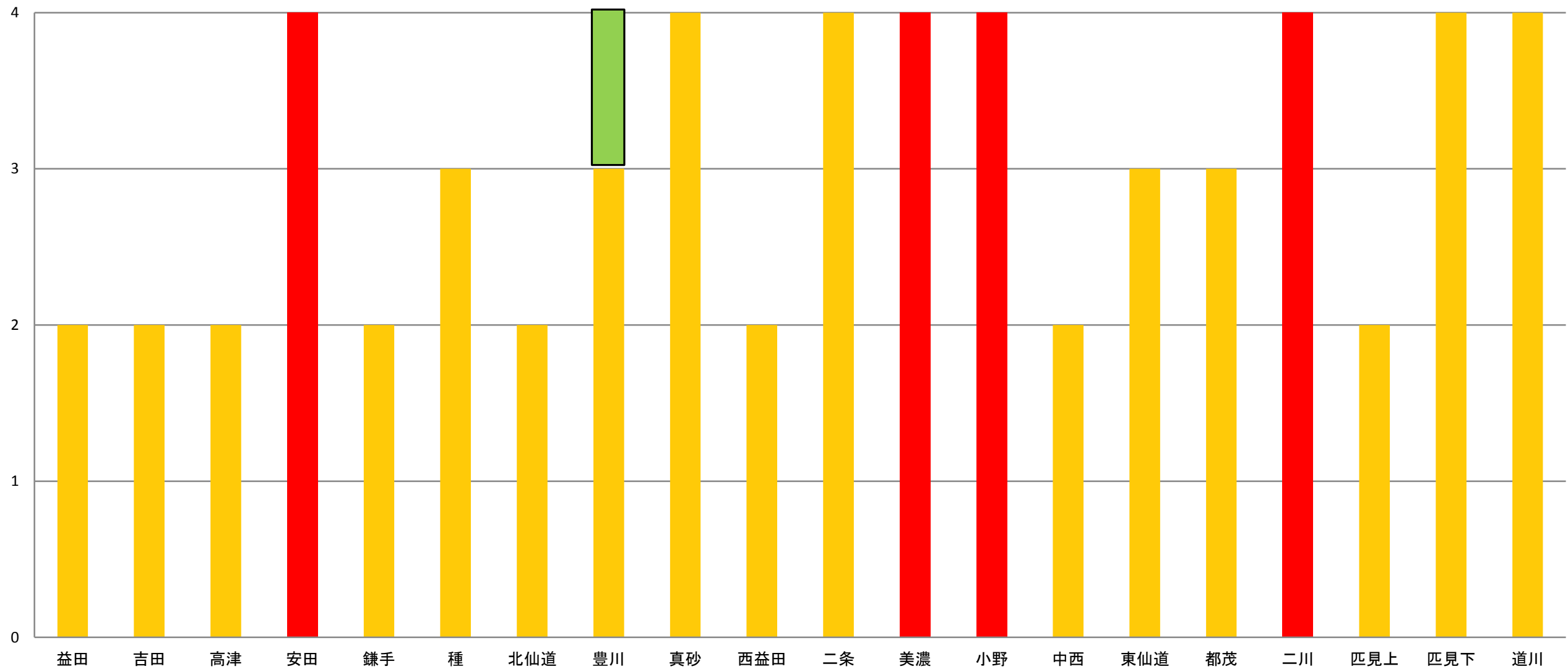
●平成29年8月設立

豊川地区 「とよかわの未来をつくる会」(人口899人、高齢化率35.3%)



各地区の進捗状況 (H29年度当初)

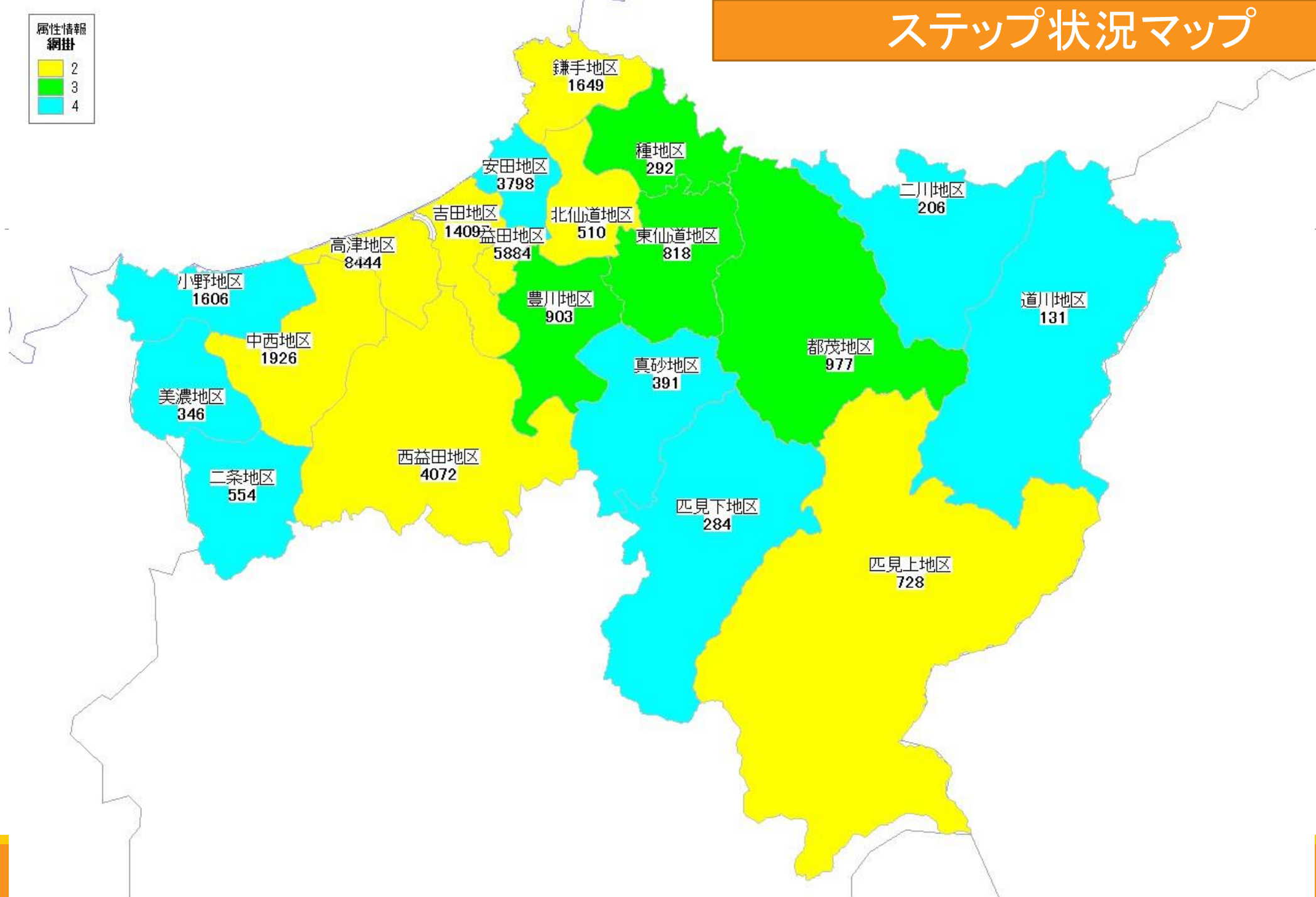
地域自治組織等ステップ表



ステップの凡例

ステップ	内容	例
ステップ1	地区のことを話し合う場をつくっている	準備会等の団体を結成
ステップ2	地区の実態把握を行なっている	学習会、ワークショップ、アンケート調査などの実施
ステップ3	まちづくりプラン・活動計画等を作成している	地区の将来像や、定住のあり方などを盛り込んだプランの作成
ステップ4	地域自治組織を設立し、市の認定を受けている	ガイドブックに示している地域自治組織の6要件を満たした団体か

ステップ状況マップ





① ヒトの支援

地区振興センターに人員を配置すると共に、地域住民による組織化や、地域が抱える課題の発見、整理、情報共有など地域自治組織の設立に向けた取組を推進する地域で、かつ希望される地域において、地域魅力化応援隊員を配置しています。現在は20名の応援隊員を配置し、各組織のみなさんと共に活動しています。

② モノ(拠点)の支援

地域住民の主体的で特色のある地域づくり活動を支援し、地域住民と行政との協働による地域づくりの推進と、住民自治の確立を図る拠点として市内20地区に地区振興センターを設置し、地域活動の拠点として活用いただいています。

③ オカネの支援

地域住民が集い、協議し、調査研究を経て、地区の将来像や取組、活動計画を作成するための財政支援として、「地域魅力化プロジェクト事業補助金」を活用いただいています。

また、市の認定を受けた地域自治組織には、まちづくりプランを実行するための財政支援として「まちづくり活動交付金」を交付すると共に、新規事業の立上げ等の支援として「まちづくり活動特別補助金」の活用が可能となっています。



地域魅力化応援隊員
連絡調整会議



まちづくりプラン



※鳥獣対策用暗視
カメラの設置



※交流拠点へのかまどの設置

平成29年度
制度改正

～二条地区の取組紹介～

★地域づくりのテーマ

「里山をいかし人と自然がつながる二条」

★地区の概要

【地区の現況】（平成 28 年 7 月末日現在）

- 自治会数 5 • 集落数 23 • 世帯数 270 戸
- 人口 567 名（男性：264 名 女性：303 名）
- 高齢化率 48%

★団体の概要

【団体の名称】 地域自治組織「二条里づくりの会」

【構成団体、構成員】 運営委員 31 名

- なりわい部会（男性 6 名 女性 3 名）
- ひと部会（男性 5 名 女性 2 名）
- くらし部会（男性 8 名 女性 7 名）

< 団体長メッセージ >



「二条里づくりの会」の活動を着実に実行すること。そして、その活動の検証・評価をして、皆で助け合うことが大事だと思います。そのために、チラシ、集会等において地域に情報発信し、地区住民へ周知を行うことにより、多くの方に「二条里づくりの会」運営委員として参加してもらい、一緒に行動できる事を望んでいます。

なりわい部会

「ふるさと便事業」



お中元・お歳暮（中身は全て地元産）合わせて200セットの販売を予定しています。お中元は、約80セットを販売しました。

「里山整備事業」



全国的にも問題となっている、放置竹林の整備を行うことにより、伐採した竹を、竹チップ・竹パウダーにして、土壌改良や、農産物への付加価値を付けるなど、有効活用する活動を行なっています。

ひと部会

「田舎体験型住宅整備事業」 「交流人口拡大・維持事業」



住民をふやす事業として、古民家を整備しました。囲炉裏やかまどを設置し、会議での使用や、田舎ツーリズム、県内外からの視察時にも使用し、二条地区の拠点の一つとして活用しています。

「空き家対策事業」



前年度より活動を行なっている成果として、約1年半の間に、9組・17名ものUIターン者が二条地区に移住されました。

くらし部会

「自主防災事業」



自主防災組織の設立を目的に、第一歩として、普通救命講習を行いました。二条地区は、救急車が来るまで30分近くかかります。その時間に救える命があると考え、皆さん一生懸命受講されました。

「鳥獣対策事業」



まず、「鳥獣の生態を把握する」ということで、イノシシ・クマの相談会を行いました。また、今年度は暗視カメラや、クマ用電網の導入により、防除対策の確立に向け活動を行いました。

～道川地区の取組紹介～

★地域づくりのテーマ

輝け笑顔！ 深まれ絆！ 行くぞ道川！

～出会い ふれあい 助け合い～ 笑顔がつなぐ明日の道川

★地区の概要

【地区の現況】（平成 28 年 8 月末日現在）

- ・人口 137 名（男性：67 名 女性：70 名）
- ・世帯数 71 戸 ・高齢化率 52.6%

★地域自治組織の概要

【組織の名称】 「道川地域づくりの会」

- 【会員】 ◆道川地区に居住する全住民
◆道川自治会（6 自治会）
◆地域で活動する各種団体およびグループ
◆趣旨に賛同する者

道川地域づくりの会 会長メッセージ



今年度末での道川小学校閉校に伴い、長年、小学校と共に歩んできたこの地域において、大きな変革の年を迎えました。今年度、地域自治組織を立ち上げ、5年後、10年後を見据えた地域のあり方を各世代が一緒になって話し合っているところです。これまでに築いてきた人と人とのつながりを大事にし、「『地域づくりの会』を立ち上げてよかったなー」と言えるよう、楽しく、地域づくりに取組みたいものです。

（三浦 和顕）

《地域資源の活用》



旧割元庄屋美濃地屋敷
道の駅匹見峽「出合の里」
春と秋にイベントを実施

250 年前の漆器を活用
「美濃地邸食」



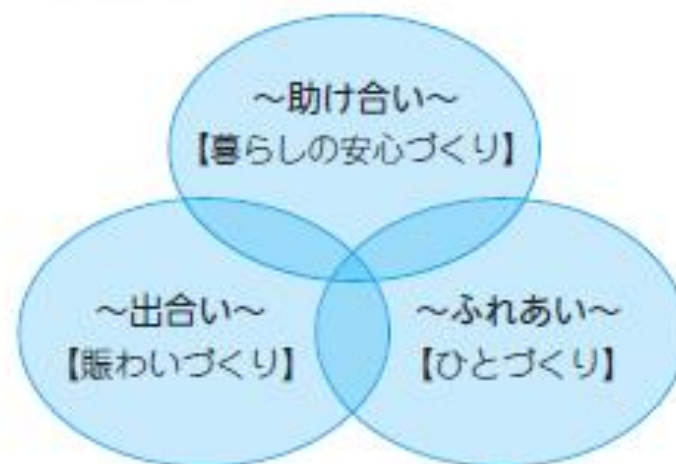
《暮らしやすい環境を整備》



買いものツアー



週4回（月・火・木・金）
配食サービスを実施



《地域内ふれあい活動》



三世代交流会



講演会



いざという時の「暮らし安心情報」
を作成中

～真砂地区の取組紹介～

★地域づくりのテーマ

「食育」と「福祉」を主軸に、
誰もが住んでいてよかったと思えるふるさとづくり

★地区の概要

【地区の現況】（平成 28 年 8 月末日現在）

- ◆人 口：392 名（高齢化率：52.6% 177 世帯）
- ◆自治会：10 ◆面 積：29.72㎡
- ◆市内より約 15km（車で約 20 分）

★地域自治組織の概要

【組織の名称】 地域自治組織地域自治組織「ときめきの里 真砂」

【構成団体・構成員】

会長 1 名、副会長 2 名、監事 2 名、会計・事務局長 1 名

- ◆きらめき部会（男性 6 名、女性 2 名）
- ◆支え合い部会（男性 3 名、女性 5 名）
- ◆学び合い部会（男性 5 名、女性 3 名）
- ◆きずな部会（男性 8 名、女性 5 名）

＜団体長メッセージ＞



真砂地区では、保育園児・小中学生・高校生や若者と住民一人一人が、元気で生活でき、学び続けるための「地域力」の向上をめざしています。

地域活動の基軸である食育活動を通して“ふるさとを熱く語れる”子どもたちの育成に努めるとともに、住民誰もが「真砂の地に住んでいて良かった」と実感できるふるさとづくりに取り組みたいと思います。



【保育所給食食材提供】

市内4保育所と提携し、低農薬で安心安全な真砂の野菜を給食食材として提供。登録農家は約40戸。週2回公民館で集出荷。高齢生産者にとっては、収入面だけでなく自分の作った野菜を園児に食べてもらえることが生きがいとなっています。



【ふれあいバスツアー】

圏内に商店や飲食店がない為、運転免許を持たない買い物弱者（主に70代～高齢女性）対策として試行運転中。デイサービスの空いている時間を利用し、市内大型スーパーまでの送迎を、月6回2コースで行っています。



【里山保育】

真砂保育園が行っている里山保育は、「地域全体が園庭」「住人全員が保育士」がモットー。圏内集落に順に訪れ地域住民と共に食事を取りながら交流する取組（1回/月）を行っており、独居老人など高齢者の見守り活動にもなっています。



【土づくり研修会】

野菜の品質と生産力向上のため、生産者に対して土づくり研修会を行っています。座学と実習を合わせた効果的で実践的な内容が好評の研修会です。



【波田城跡地整備】

子どもの遊び場づくりと地域内外の親子交流などを目的に波田城跡地を整備し、地元大工さんを講師としてワークショップ形式でツリーハウス等を制作しています。



【情報発信】

SNS (facebook) を地域全体（公民館・保育園・小中学校・地域商社）で管理し、日々の情報を多角的に発信しています。（平均アクセス数：約1500/日）

～匹見下地区の取組紹介～

★地域づくりのテーマ

健康で長生きでき、住み続けられ、住み続けたいと思う
地域づくりを行い、地域人口の拡大をめざす

★地区の概要

【地区の現況】（平成 28 年 9 月末日現在）

◆人 口：297 名（高齢化率：64.6%）

益田市で高齢者率が一番高い地区です。

★地域自治組織の概要

【組織の名称】 匹見下いいの里づくり協議会（平成 28 年 4 月 24 日設立）

【構成団体・構成員】

- 各連合自治会（4） ○各自治会（17）
- 匹見下婦人会 ○澄川寿会
- 高齢者サロン（4） ○関係団体（17）
- 賛助会員（個人）

◎合計 44 団体の代表者や個人会員を代議員とし、この代議員により

「地域活性化委員会」「健康福祉委員会」「生活環境委員会」の 3 委員会を構成

＜団体長メッセージ＞



平成 28 年 4 月に設立した「匹見下いいの里づくり協議会」は、地区会員の積極的な協力のもと、3 つの委員会で企画した事業を順調に進めています。

匹見下地区は、地域が広く、高齢者が多いことが特徴となっていますが、言い換えれば地域資源が豊かで、知恵と知識の宝庫であると考えています。この資源を活かし、「ささえ愛 笑顔がつくる いいの里」のスローガンのもと、いきいきと安心して暮らせる地域づくりを行なっていきます。

皆様なお一層のご指導とご協力をよろしくお願いします。

【会長 山崎 一美】

★ こんな地域づくりを行なっています



高槻サマーフレンドシップ2016 in 益田

交流事業の一環として姉妹都市高槻市の親子が8月3日・4日の2日間、匹見下地区を訪れました。

匹見川での様々な川遊び、花火、星空観察そしてテントでのキャンプなど、この地区ならではの体験で、楽しく有意義な交流となりました。



ささえ愛マップづくり

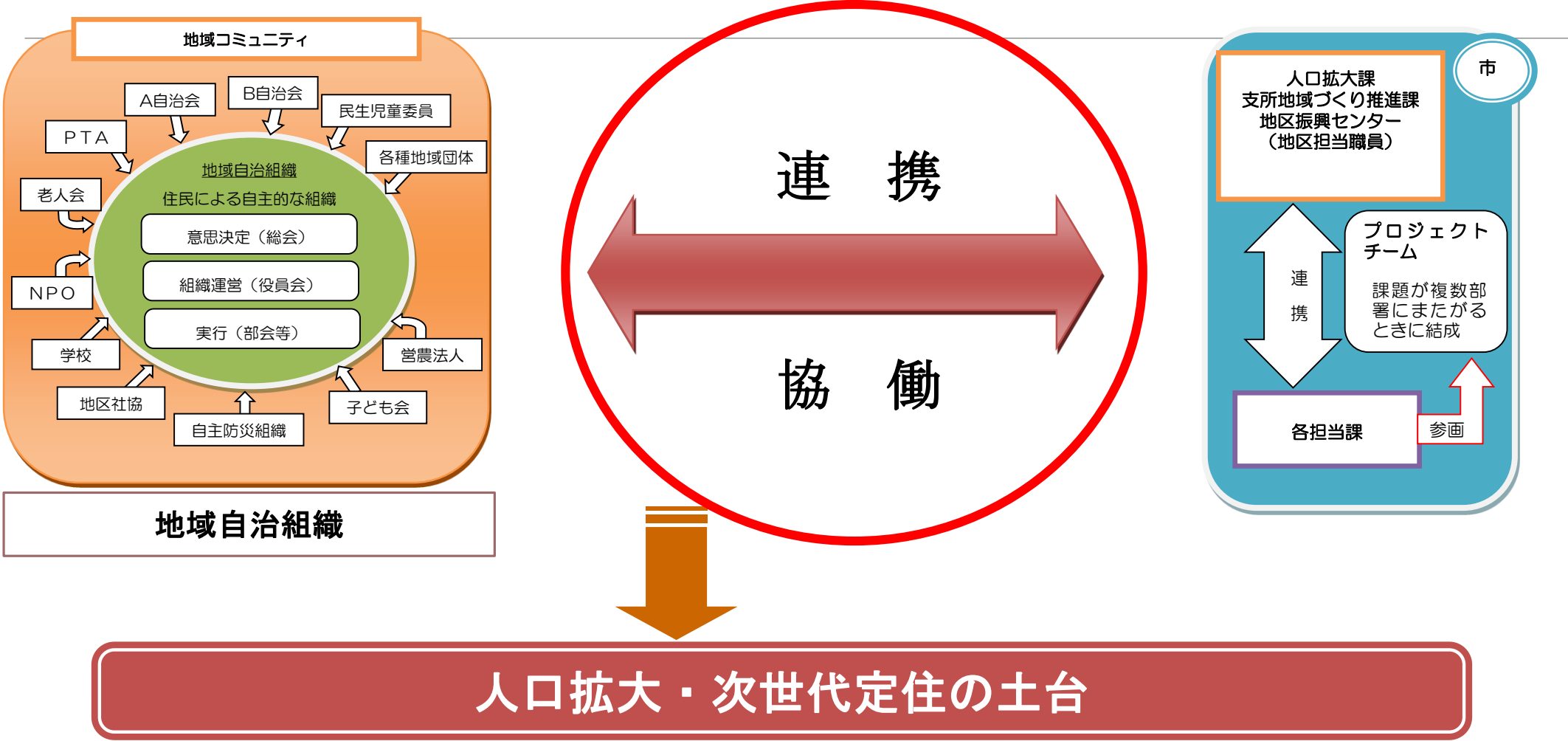
「健康福祉委員会」「生活環境委員会」の合同委員会と社会福祉協議会、民生委員、福祉委員等と協力し、地域での日常的な支え合いづくりを目的に、匹見下地区を4地域に分け、「ささえ愛マップづくり」を実施しました。



平成 28 年度匹見下地区民運動会

9月18日、匹見下地区民運動会を「いいの里」で開催しました。あいにくの雨模様で体育館での開催となりましたが、100人を超える参加者が4チームに分かれ、幼児から高齢者まで、縄跳び競争やグラウンド・ゴルフなど、この地区ならではの競技でお互いの親睦を深めました。

地域と市役所の協働の仕組みづくり

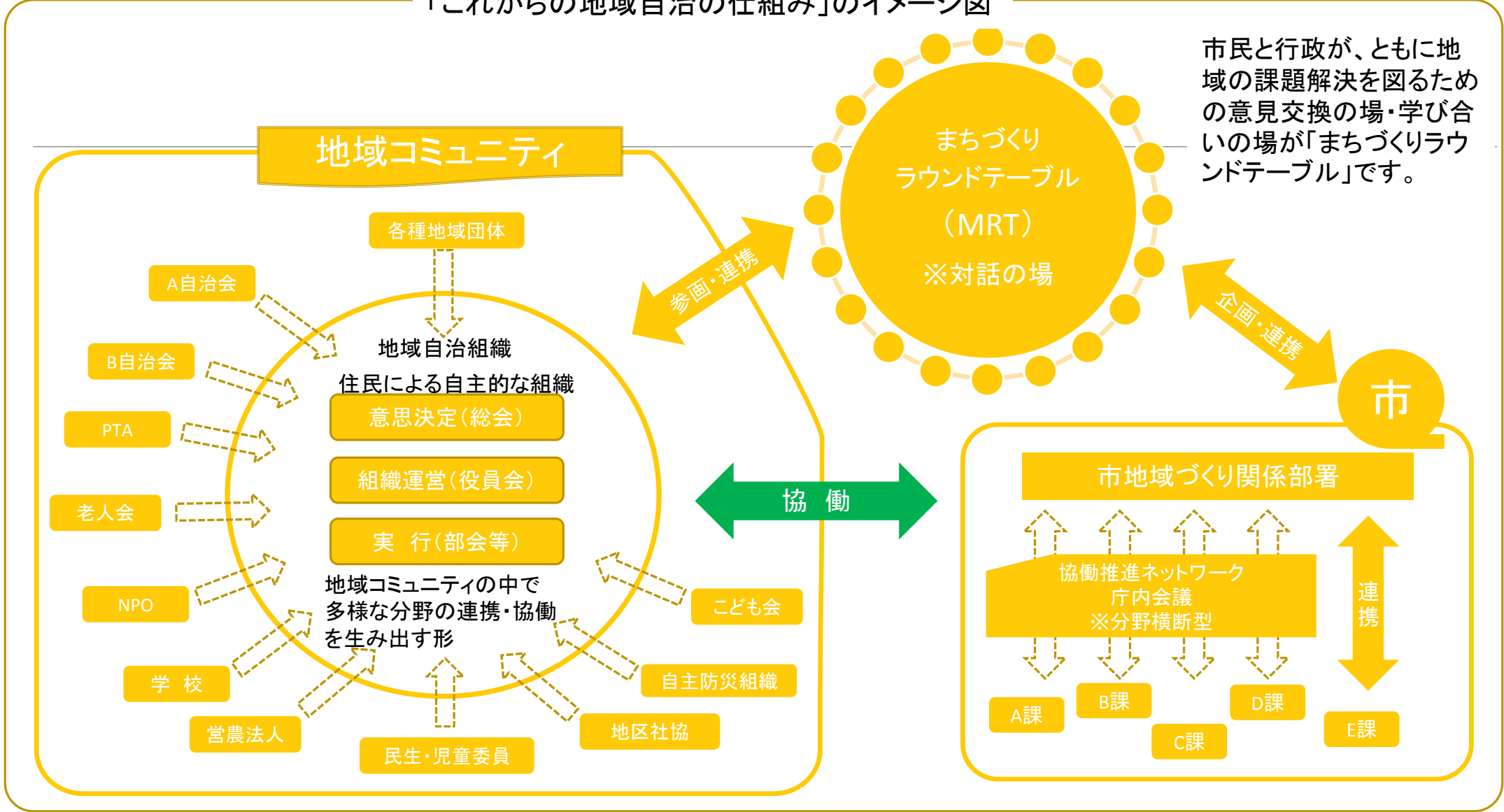


まちづくりラウンドテーブル＝MRT



地域と市役所の協働の仕組みづくり

「これからの地域自治の仕組み」のイメージ図



ー協働のまちづくりの仕組みー

まちづくりラウンドテーブル

★「まちづくりラウンドテーブル」って何？

地域住民が豊かに暮らし続けるとともに、未来を担う子どもたちが大人になっても豊かに暮らし続けていけるような地域づくりを実現するため、市民と行政がともに考え行動するパートナーシップ※1を確立し、各地の地域課題の解決を図るための意見交換の場ならびに学び合いの場が、「まちづくりラウンドテーブル（以下「MRT」）」です。

※1 パートナシップ…共通の目標を目指し、協力していく関係。

★なぜ MRT をやるの？

まちづくりの主体者は市民一人ひとりです。市民憲章の前文には「私たちは、自ら話し合い、きまりをつくり、一人ひとりがみんなと協力し、思いやりをもって行動し、人と人とのつながりを大切にすることにより、私たちの住む地域を明るく安心して暮らせる地域とするために、この憲章を定めます。」とあります。

MRT は、市民同士の協力の促進や市民と行政とのパートナーシップを確立するために実施します。

まずは、まちづくりのビジョン等を共有し、相互の役割を認識することが大切です。さらに、それぞれの立場で可能なことから実行し、方向性が重なり合う部分については、パートナーシップを発揮できるように連携していければと考えています。

★だれが参加するの？

益田市では、市内 20 地区ごとに、住民が自らの地域を住みよいものとするために、自主的で主体的に取り組む組織である「地域自治組織」の設立を支援しています。

平成 29 年 2 月現在、二条・道川・真砂・匹見下地区に市が認定する地域自治組織が設立され、地域住民による主体的で民主的なまちづくりが始まっており、住民自治の機運が高まっています。他の地区においても、自治組織設立に向けた準備組織等が立ち上がり、住民同士のまちづくりに対する話し合いや課題解決の取組が始まっています。

MRT は、このように地域内の合意形成が図られている地域自治組織や地域自治組織の設立に向けて活動している準備組織等の皆さんに参加して頂くことが相応しいと考えています。市役所職員も参加しています。

★どんなことをするの？

MRT はあくまで参加者の意見交換の場であり、学び合いの場です。この場で何かを決定するといったものではありません。

他地域との情報交換や行政との情報共有を行なうなど、それぞれの団体が今後の方向性のヒントを得たり、他地域との協力体制や行政とのパートナーシップの確立を促進したりする場です。

具体的には、毎回テーマを設定し、テーマに関する意見交換や学び合いの場を創出していきます。

★どんなふうに進めるの？

Step1 【開催まで】

地域自治組織等の皆さんからご意見を頂き、益田市協働推進ネットワーク庁内会議^{※2}（以下「庁内ラウンド」）が調整し、MRT のテーマを決定します。

※2 益田市協働推進ネットワーク庁内会議 …市民と行政の協働体制を構築するために、市役所内部に設置された機関。平成28年3月8日設置。

Step2 【開催当日】

テーマに基づいた各組織の考え方や取組についてディスカッションを行います。参加者の様々な発想をもとに自由に意見を出し合い、学びを深めます。

Step3 【終了後】

参加者は、組織内で MRT の結果を共有するなど、今後の活動に向けての協議や協働化に向けた事業計画等の参考にしてください。

市は、MRT の結果の中から協働化できるものを協議し、実現可能なものは事業化について検討します。

★ MRT の結果はどうなるの？

MRT の場で何かを決定するといったことはしません、MRT で得た情報や学びを参加者がそれぞれの地域で共有し、今後どのように活かしていくことが出来るかが大切になってきます。

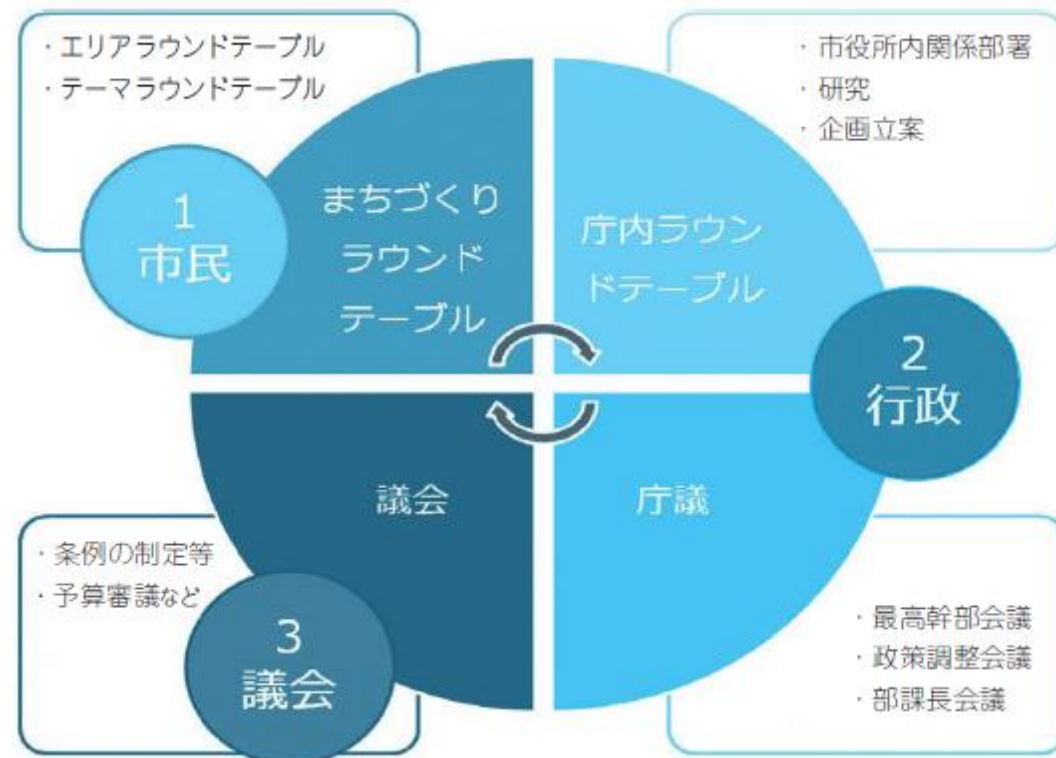
〓 Next Action 〓 が MRT の最大の成果だと思っています。

★ MRT から始まる政策決定サイクル

市は MRT で出された意見を基に庁内ラウンドで検討を重ね、必要性が高いものは政策として立案し、庁議^{※3}に諮ります。庁議で決定され、予算が必要なものについては、市長が議会へ提案し、議会で採決されると予算化されます。

※3 庁議…市の基本方針の策定、重要施策の審議および各部課の総合調整を図るなど、効率的な行政経営を行う機関。

(政策決定サイクルのイメージ)



MRT(テーマ)の様子

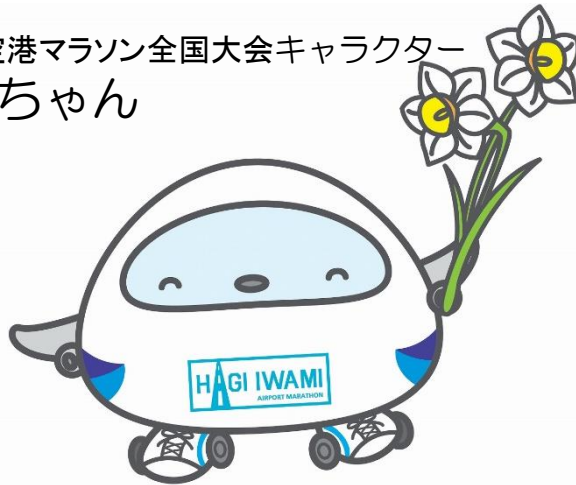


MRT(エリア)の様子



ご静聴ありがとうございました。

萩・石見空港マラソン全国大会キャラクター
空runちゃん



ますだ暮らしキャラクター

